

山口市芸術家育成支援事業

第9回やまぐち新進アーティスト大賞

第9回やまぐち新進アーティスト大賞受賞者

よしむら たいせい
吉村 大星

応募アーティスト数 : 15名

最終選考ノミネート者 : 10名

おおた けい
大田 慶 (22)

しらいし えつこ
白石 悦子 (35)

しらべ きみこ
調 喜美子 (59)

すすき けいじろう
鈴木 啓二郎 (35)

たかはし もとすけ
高橋 基介 (30)

テラダ サチコ (31)

むかいだ みほ
向田 美保 (26)

やまと けいた
大和 佳太 (31)

よしむら たいせい
吉村 大星 (24)

よろずあーと
YorozuArt (40)

(50音順・敬称略、年齢基準日：審査日)

(総評)

9回目のやまぐち新進アーティスト大賞の選考は、各委員による投票の結果、獲得数上位の10名が第2次選考にノミネートされた。続いて、委員による自由な感想・意見を交換した後、投票により吉村大星氏が大賞候補者として選出された。吉村氏の色鉛筆画は、父親の故吉村芳生氏と共に、徳地船路のアトリエで作成され、独学による大星流写生画を産み出している。自ら撮影した猫の写真と対峙しながら、写生を超えた愛着すら感じる作風を展開している。

(第9回やまぐち新進アーティスト大賞審査委員会審査委員長 足立明男)

(やまぐち新進アーティスト大賞選評)

写真をもとに色鉛筆で描かれた作品。猫の毛や植物などの表現の緻密さと、ピンボケの背景の非現実的な浮遊感、部分的に鮮やかに強調された色彩などがあいまって、奥行きが見えないにもかかわらず妙にリアルな、不思議な空間が生まれている。

対象が愛着のある猫であるがゆえに、これほどの作品が描けるのだろう…とも考えてみるが、一鑑賞者の勝手な言い分として、ぜひ、他のものを描いた大作も見てみたい。作家はこれから立体作品にも挑戦したいと言う。楽しみに待ちたい。

(第9回やまぐち新進アーティスト大賞審査委員会審査委員 斎藤郁夫)

・・・第9回やまぐち新進アーティスト大賞審査委員会審査委員・・・

足立 明男 (山口情報芸術センター館長)

石崎 泰之 (山口県立萩美術館・浦上記念館学芸専門監)

兼原 啓二 (山口短期大学教授)

斎藤 郁夫 (山口県立美術館副館長)

水谷由美子 (山口県立大学国際文化学部長)

大和 保男 (陶芸家)

(50音順・敬称略)

「第9回やまぐち新進アーティスト大賞」

受賞者：吉村^{よしむら} 大星^{たいせい}
肩書き：画家



PROFILE

1992年 山口市徳地生まれ
2007年 山口市立徳地中学校 卒業
2009年 山口県美術展覧会 佳作
山口市美術展覧会 大賞
2010年 山口県美術展覧会 佳作
2011年 山口県美術展覧会 佳作
2012年 山口県美術展覧会 佳作
2014年 山口県美術展覧会 佳作

中学校を卒業後、父吉村芳生の手伝いを始める。

それと同時に自分の作品制作も始める。

現在も自宅のアトリエで制作中。

受賞コメント

この度は第9回やまぐち新進アーティスト大賞を受賞できて本当に嬉しく思います。

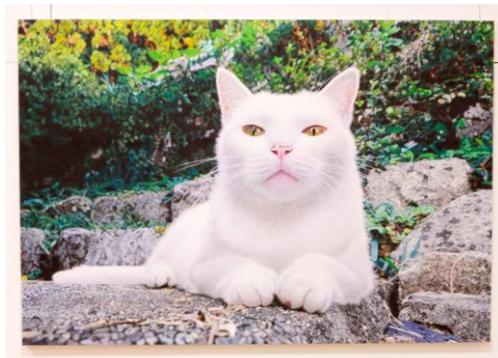
僕がこれまでに描いた作品は、全てこの山口の暮らしの中で生まれました。

これからも、大好きな山口で、山口の魅力が伝わる、そんな作品を発表できるように努力していきます。

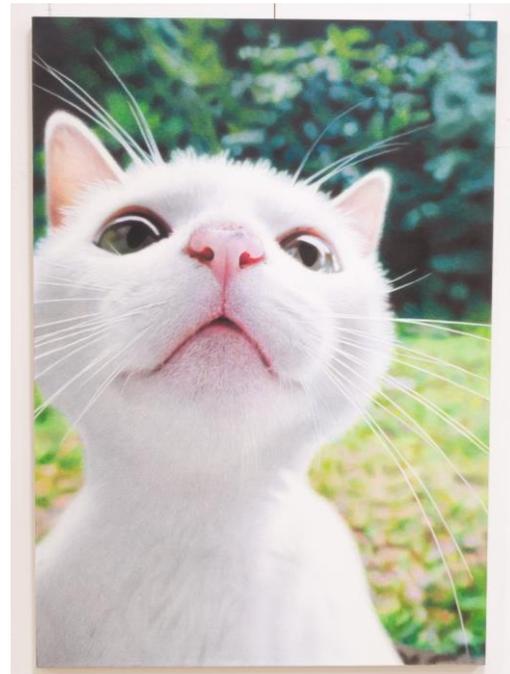
(やまぐち新進アーティスト大賞審査対象作品)



「チロクマ」



「ポジティブ」



「リハビリ」

山口市芸術家育成支援事業

第10回やまぐち新進アーティスト大賞

第10回やまぐち新進アーティスト大賞受賞者

すずき けいじろう
鈴木 啓二郎

応募アーティスト数 : 9名

最終選考ノミネート者 : 9名

さえき かずあき 佐伯 和章 (43)	ささき のりこ 佐々木 範子 (45)
すずき けいじろう 鈴木 啓二郎 (36)	たかはし もとすけ 高橋 基介 (31)
にしざわ ゆう 西澤 佑 (23)	ぴびり ロベルト (57)
もりみつ あさこ 森光 亜紗子 (38)	やまと けいた 大和 佳太 (32)
やまね 山根 みどり (56)	

(50 音順・敬称略、年齢基準日：審査日)

(総 評)

10 回目の節目となった今回は、絵画、工芸、写真、現代美術の 9 人がノミネートされた。出品されたどの作品も、それぞれ真摯に取り組む作家の姿勢が見て取れて、審査会における議論は白熱した。

これからのアートは、その発想、技法・技術、素材の点においてますます多様化してゆくだらう。この記念の回の審査を行いながら、伝統的なものも革新的なものも共生しうるアートの自由で多彩な世界が、山口で育ってゆくことを願った。

(第 10 回やまぐち新進アーティスト大賞審査委員会審査委員長 齋藤郁夫)

(やまぐち新進アーティスト大賞選評)

鈴木啓二郎氏は、審査会では3点を展示した。写真で提示されたインスタレーションとは異なる方法だったので、空間的な魅力が出ていない部分があった。それぞれの作品は身近なメディアを用いながら、ユニークな解釈によるコンセプトな作品であるが、端的な造形による魅力が感じられる。たとえば「風に吹かれて見える風景…」は旗が何気なく展示されているのだが、その布には青空の写真が印刷されていて、旗から空そして想像の空間へまた、風が吹けば、天空の風を感じさせるように、無限の想像世界へと見る人を誘う。

作る人の意思と見る人の想像力が自由にコミュニケーションされる作品であり、かつ洗練された造形性によって、大賞に相応しいと考えた。今後の作品にも期待したい

(第10回やまぐち新進アーティスト大賞審査委員会審査委員 水谷由美子)

・・・第10回やまぐち新進アーティスト大賞審査委員会審査委員・・・

足立 明男 (山口情報芸術センター館長)

石崎 泰之 (山口県立萩美術館・浦上記念館副館長)

兼原 啓二 (山口短期大学教授)

斎藤 郁夫 (山口県立美術館副館長)

水谷由美子 (山口県立大学国際文化学部長)

大和 保男 (陶芸家)

(50音順・敬称略)

「第10回やまぐち新進アーティスト大賞」

受賞者：^{すずき}鈴木 ^{けいじろう}啓二郎
肩書き：現代美術作家&デザイナー



PROFILE

1981年 愛知県名古屋市生まれ
2004年 名古屋市立大学
人文社会学部国際文化学科卒業
2010年 ヒューストン大学大学院
美術学部 彫刻科 修士課程修了
2011年頃から山口県との関わりを持ち、2014年夏頃から本格的に山口市に生活拠点を移し、芸術文化事業の企画運営に携わったり、デザイン業を営んだりしながら、山口市をはじめ国内外で作品制作と発表を続けています。日常で忘れてたり、気づかなかったりする歴史や事実などの掘り起こしをもとに、様々な素材や表現手法を通して現実社会を少し違った角度から見る機会を生み出す試みを続けています。

受賞コメント

昨年に引き続き、今年も応募させていただいたときには、私のような作品や表現手法を広く多くの方に見ていただけるだけでも嬉しいと思っていましたので、第10回という節目の年に受賞できた事に対して驚きと感謝の気持ちが混在しております。数年前に山口市へ移住し、なかなか落ち着いて制作する事ができない状態が続きましたが、これまで以上に地域性や国際的な視野と意識を持って、作品制作と日常生活を両立させていけるように努めたいと思います。みなさま、ありがとうございました。

(やまぐち新進アーティスト大賞審査対象作品)



「宇宙毛布スーツ・パターン
(黄金のフリース)」 写真左

「風に吹かれて見える
風景…」 写真右上

「声、声、声… (#2)」
写真右下